異文化理解による日本人大学生の英語学習意欲向上
～ベトナム渡航のケーススタディ～

上條　美和子
Miwako KAMIJO

Abstract

This study explores the impact of cross-cultural understanding on the English learning motivation of Japanese university students who experienced a short-term stay in Vietnam. Examining the theoretical background of goal setting and motivation in English as a Foreign Language (EFL) learning, the research analyses how cross-cultural experiences, particularly in Vietnam, influenced students' motivation for English learning. Through self-reported data, the study investigates the effects on attitudes and behaviors towards autonomous learning. The findings emphasize the correlation between cross-cultural understanding and English learning motivation, proposing practical approaches for effective English education. In conclusion, the study reaffirms the importance of cross-cultural understanding in English learning and outlines prospects for future research, contributing to a deeper understanding of strategies for enhancing motivation in English education.

Key words: cross-cultural understanding, English learning motivation, Vietnam, autonomous learning behaviors, Japanese University students

概要

グローバリゼーションが進む現代において、英語は国際的なコミュニケーションの重要なツールであり、異文化間交流の架け橋となっている。そこで本研究では、異文化理解が英語学習意欲に与える影響を探究することを目的としている。そのため、異文化理解を深めることが、英語学習に対する動機づけをどのように向上させるかを、ベトナムへの渡航を経験した日本人大学生のケーススタディを通じて考察した。第一に、EFL（English as a foreign language:英語を外国語として学ぶ）学習における目的意識と動機付けの理論的背景を概観し、日本における英語教育の現状と学生の英語学習に対するニーズについて記載する。次に、実際の異文化体験が学習意欲に及ぼす影響を分析し、特にベトナムへの短期渡航が学生の英語学習意欲にどのような具体的な変化をもたらしたかを調査する。さらに、異文化体験が自律学習への態度や行動にどのように影響するかを検証するため、学生の自己報告データを用いて分析を行う。このプロセスを通じて、異文化理解と英語学習意欲の関連性を明らかにし、より実践的かつ効果的な英語教育のアプローチを提案する。最後に研究の結果をまとめ、英語学習に対する異文化理解の重要性を再確認し、今後の研究に向けた展望を示す。この研究が、英語教育における異文化理解の統合と学習意欲向上の戦略に対する理解を深めることに貢献することを期待する。

Key words: **異文化理解、英語学習意欲、ベトナム渡航、自律学習、日本人大学生**

1章　英語学習ニーズと自律学習

世界における英語の位置付けは、三つのカテゴリに分けることができる。母語としての英語（ENL: English as a Native Language）、第二言語としての英語（ESL: English as a Second Language）、そして外国語としての英語（EFL: English as a Foreign Language）である [Kachru, Kachru, Nelson, 2009]。まず、イギリスや

アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどはENL国であり、日常生活において英語は不可欠である。次に、インド、シンガポール、ナイジェリア、デンマーク、マレーシアなどはESL国であり、英語は母語ではないが、歴史や政治の経緯から公用語や準公用語となっており、住民は英語を学ぶ具体的な動機と意欲を有している。最後に、日本、韓国、ヨーロッパ諸国、インドネシアなどのEFL国では、特に大学生以降の年齢層で英語の学習動機や意欲を維持することは難しく、学習効果を高めるためには教室外での学習環境の拡大が必要であるとされる。

大学生の一般英語（EGP: English for General Purposes）に関する学習ニーズ分析は、学習者の習熟度に関わらず、彼らが英語でのコミュニケーションを実現できれば良いと考えていることを示している［古家 櫻井, 2014］。また、大学生を対象とした英語学習に関する意識調査によれば、外国人とのコミュニケーションが取れることは楽しいと感じ、それが英語を学ぶ上での最も大きな動機であるという結果が出ている［合同会社DMM.com, 2022］。しかしながら、日本人学習者、特に大学生は、母語話者の話す英語には慣れているものの、非母語話者の話す英語に触れる機会は少ない。そのため、学生に自己調整型学習（Self-regulated Learning）を促し、学習の自立を促す必要があるという事実を浮き彫りになっており、背景には日本の英語教育が依存型のスプーンフィーディング（spoon-feeding）教育がある［佐々木 柳原, 2021］。また、日本における英語教育現場の多くは依存型学習のスプーンフィーディング教育なので、大学生には自己調整学習によって学習の自立を促す必要性がある。

英語教育の現場では、学習者は教員が創造した学習環境の中で楽しく学習しているかもしれないが、その限りでは教室外の実践的な英語に触れる機会は得られない。実際に、大学生が目指す英語によるコミュニケーションの実現は、英語を話さないクラスメイトに囲まれた現場には存在せず、学習活動は教員の指導方法に大きく影響されているという先行研究も存在する［竹内　理, 2011］。英語教育の現場では、潜在能力を授け、適切な環境が整えばそれが顕在化すると考えられている［平泉 渡部, 1975］。その環境は時代と共に変化し、異文化理解への関心や理解は、その変化する環境の一つであり、重要な要素である。

学習者の自立を促すメソッドは自己調整学習の枠組みの中に見出すことができる。この枠組みは、学習者の自立を促すために、思考（Thinking）、行動（Doing）、感情（Feeling）の三分野に配慮する必要があることを示唆している［竹内　理, 2011］。思考とは、学習の目標設定や計画策定、振り返りなど、行動より上位のレベルと関わるメタ認知のことである。行動は、実際の学習行動や学習戦略に関わることを指す。感情は、動機付けや意志の維持など、情意的な側面に関連する［Harris Graham, 1999］。英語学習において、異文化理解への関心や理解は、これら三分野と関連し、日本人大学生の英語学習意欲を向上させる重要な要素である。

2章　英語と異文化について

英語の学習に着手することは、日常生活、旅行、留学、ビジネスなど、英語と関わる様々な状況において外国人との交流を開始することから始まる。どのような形態であれ、異文化に接し理解を深めることが英語学習の起点である。この起点から、英語学習の目標をどう設定するかは個々に差があるが、多くの日本人大学生にとって、コミュニケーション能力の向上が示唆される。また、英語学習は単なる外国語の習得にとどまらず、異文化理解なしには成り立たない。異文化理解に関する充分なインプットがあれば、英語のコミュニケーション能力は自然と向上し、学習意欲の継続的な向上にもつながる。

日本の大学における外国語学習プログラムの目標として、言語運用能力の向上、教養の習得、異文化理解が頻繁に挙げられる。異文化理解は、外国語教育において重要な部分を担うものの、その具体的な授業での取り扱いが不透明で理解しにくいという課題がある［KUSAMOTO, 2019］。さらに、異文化理解や異文化間コミュニケーションに関する研修はグローバル企業において行われ、大学においても専門的に学ぶことができるようになっている［ワールド・ファミリー バイリンガル サイエンス研究所, 2020］。そこで、本研究は具体的にどのような異文化理解を通して英語学習意欲が向上していくのか、日本人大学生のケースを紹介するものである。

2.1　ベトナムで英語学習意欲向上

本研究は、ベトナム渡航を経験したことによる異文化理解の獲得と、それによって養われた英語学習意欲の向上に焦点を当てて報告する。英語文化コミュニケーション学科に所属する女子大学生2年生55名を対象に英語学習の目標に関するオープンエンド質問を実施した結果、多様な目的意識が明らかになった。その中でも70.9%が「英語によるコミュニケーションを行い、他者との交流を深めたい」と回答し、30.9%が「異文化理解」を英語学習の目的としていた［上條美和子, 2023］。これにより、学部学科の習熟度に関わらず、大学生の英語学習目標が英語によるコミュニケーションと異文化理解に焦点を当てていることが確認された。この結果は、英語学習ニーズと自律学習（1章）でも言及している。そこで、在学中の学習には限界がある中で、海外渡航が大学生の学習目標達成に対する自律的な学習を促進すると考え、四つの点を重要視した。また、異文化への関心や理解が思考（Thinking）、行動（Doing）、感情（Feeling）にどのように結びつき、自律的な英語学習意欲にどのような影響を与えるかを観察した。

2.1.1　国の成り立ちと現在を知る

渡航において重要視すべき最初の点は、訪れる国の成り立ちと現状を理解することである。歴史や政治（政体、内政、外交方針、戦争・軍事力）、世界遺産、ASEAN (Association of South‐East Asian Nations) に関する知識を深めることで、世界各国および日本に対する理解が促進される。ベトナムは紀元前207年に南越国として成立し、16世紀にはホイアンに日本人町が栄えたが、1884年にフランスの保護国となった。1930年にベトナム共産党が結成され、1940年9月には日本軍が北部仏印に、1941年には南部仏印に進駐した。1945年9月2日にはホーチミン主席による「ベトナム民主共和国」の独立宣言があり、その後も戦争や爆撃が続いた。日本との外交関係は1973年に樹立され、1992年には対越援助が再開された。そして2023年には、日越外交関係樹立50周年を迎えた。ベトナムの政体は社会主義共和国であり、その意識は現地の生活空間で日本との違いを明確にする［外務省, 2023］。2023年には、秋篠宮ご夫妻のベトナム訪問や、岸田総理大臣とチン首相との首脳会談が行われている。

2.1.2　英語運用能力の重要性について理解

渡航の際に重視すべき二つ目の要素は、英語運用能力の重要性についての理解を深めることである。EF英語能力指数（EPI）2022年版によれば、ベトナムの英語能力は世界的には標準的であり、アジアでは上位に位置するEFL（English as a Foreign Language）国である。最大スコア700点中、オランダが661点で世界最高スコアを、アジアではシンガポールが642点で最高スコアを記録し、一方でラオスは364点と最低スコアである。日本のスコアは475点であり、これはトルコ、イラン、エジプトなどと同レベルである。（Table 1）（付録1）

Table 1：EF EPI 2022 地域別トレンド

	ヨーロッパ	アジア	アフリカ	中南米	中東
最高スコア	オランダ 661	シンガポール 642	南アフリカ 609	アルゼンチン 562	レバノン 513
最低スコア	アゼルバイジャン 440	ラオス 346	コンゴ民主共和国 367	ハイチ 421	イエメン 370
能力レベル上昇（国、地域）	2	3	0	3	1
能力レベル低下（国、地域）	3	1	0	0	1

[Education First, 2023]

多くの国では、難関大学出身のエリート層が英語を話せる特徴があり、日本とベトナムも例外ではない。しかし、文部科学省の調査によると、ベトナムの大学進学率は約30%であり、これは日本の56.6%と比較すると低い。ベトナムでは、大卒者はエリート層に位置付けられる。筆者が2016年に訪れたダナンやホイアンなどの観光地では、英語によるコミュニケーションが盛んではない印象を受けたが、近年のEF EPIの結果によればベトナムの英語能力は日本よりも高いとされている。(Table 2) 2020年から2021年までの期間ではベトナムの英語力は日本よりも低かったが、2023年夏に再訪した際には観光地で英語によるコミュニケーションが盛んであったことが観察された。また、インタビューを通じて、学校教育での英語学習に不足を感じているために独学で学習する人が多いことが明らかになった。特に観光客との対話を通じて英語コミュニケーション能力を身に付ける方法が一般的である。コロナ禍による英語学習環境の閉塞が、一時的な英語能力低下の要因である可能性が示唆されている。観光地では、英語が使えるか否かで収入に大きな差が生じるため、英語学習の動機づけになっている。そのため、翻訳アプリやオンラインの画像などを活用した英語によるコミュニケーションが行われ、学生に大きな影響を与えている。英語運用能力の重要性を理解することが期待される。

Table 2：EF EPIスコアと英語脳力レベル[1]の表

	2016	2019	2020	2022	2023
日本	51.69 (3)	51.57 (3)	487 (3)	475(3)	457(3)
ベトナム	54.06 (2)	51.51 (3)	473 (3)	503(2)	505(3)

*2019年までのスコア表記が2020年から改変

[Education First, 2016] [Education First, 2019]
[Education First, 2020] [Education First, 2022] [Education First, 2023]

2.1.3 非言語コミュニケーションの有効性

渡航において重要な三つ目の要素は、非言語コミュニケーションの有効性について実践的に学ぶことである。これは、先に述べた英語運用能力の重要性と、後述する異文化体験の項目とも関連している。ベトナム人は独特の英語のアクセントを持っており、同様に日本人の英語にも特有のアクセントがあるとされる。アクセントが強い者同士のコミュニケーションは困難を伴うことがある。フランス統治の影響で、ベトナム語には子音の発音が弱いという特性があるため、言葉が通じない場合も生じる。そのような状況においては、ボディランゲージやスマートフォンを活用したコミュニケーションスキルが重要となる。

2.1.4 異文化体験

最終的に、渡航における重要な四つ目の要素は異文化体験（生活環境、宗教、価値観など）である。参加者は、現地の人々の生活をさまざまな側面から体験する。観光客でありながらもローカルと類似した日常を早朝から疑似体験する。日常的に集う場所に意図的に訪れ、その地の衣食に触れ、積極的にコミュニケーションを取りながら情報収集を行う。その際、自らの意志をも伝えるために、積極的なコミュニケーションを図ることに重点を置いた。スマートフォンアプリを用いたコミュニケーションも現地で広く利用されており、日本についての情報もローカルと共有することで、参加者は日本人としてのアイデンティティーを再確認出来たであろう。

2.2 異文化による英語学習環境について

本研究では、英語学習環境について異文化理解が深く影響するという仮説を立証する手段として、実際にベトナム渡航を経験した学生からのフィードバックを使うこととし、協力を仰いだ。プライバシー保護と回答内容の機密性を確保するため、学生には事前に説明を行って同意を得ている。その上で、事前および事後の調査を実施

[1] *英語能力は5．非常に高い英語能力　4．高い英語能力　3．標準的な英語能力　2．低い英語能力非常に低い英語能力(付録2)

し、英語学習の経験年数などの質問をした。さらに、英語学習動機、異文化理解、学習方法に関する質問、およびオープンエンド質問を通じて情報収集した。滞在中の活動は、事前調査の結果を基に計画を立てて、観光地をはじめとし、ローカルが集まる場所にも率先して足を運んで、積極的なコミュニケーションを重要視した。(付録3)ベトナム渡航は、異文化理解とその理解に関連して英語学習意欲の向上を目指している。以下は、フィードバックに基づいた結果となり、異文化理解と英語学習意欲の向上に関する洞察に富んだものになった。

2.2.1　アンケート調査結果

アンケートでは、ベトナム渡航によって異文化理解と英語学習意欲にどのような影響を与えたかを評価することにより、異文化理解が英語学習へ与える影響が理解される。本項目ではアンケート調査の結果を踏まえて、英語学習意欲の影響について解説をする。まず、5名を対象に行ったリッカート尺度5段階アンケートの結果についてである。(Table 3、Figure 1)

Table 3　ベトナム渡航参加者アンケート結果

質　　問		平均(5点満点)	標準偏差(±)
Q. 1	ご自身で持ったベトナム渡航の目標を到達できましたか？	4.17	0.75
Q. 2	ベトナム渡航中に英語を使う機会が増えましたか？	4.33	1.21
Q. 3	ベトナム渡航での異文化交流は英語学習意欲にどの程度の影響を与えましたか？	4.50	0.84
Q. 4	現地の人との交流は楽しかったですか。	4.67	0.52
Q. 5	世界遺産観光は満喫できましたか。	4.17	0.41
Q. 6	バナヒルズは満喫できましたか。	3.83	0.75
Q. 7	ローカル環境は満喫できましたか？	4.67	0.82
Q. 8	現地の食事を楽しめましたか。	3.50	0.84
Q. 9	異文化環境で刺激を受けましたか。	4.83	0.41
Q. 10	異文化体験は、英語力やコミュニケーション力への関心を強めると思いますか？	5.00	0.00
Q. 11	異文化体験は、英語力やコミュニケーション力へのレベルをあげると思いますか？	5.00	0.00

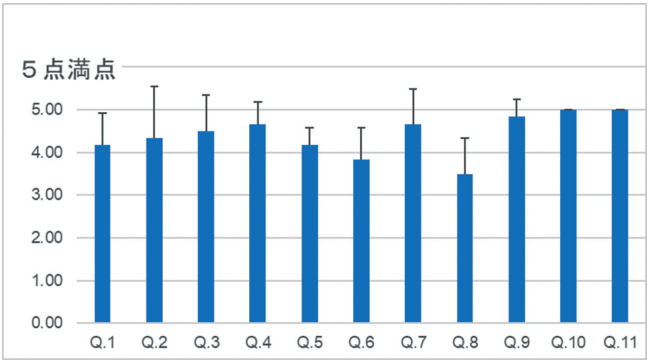


Figure 1：ベトナム渡航参加者アンケート(平均＋標準偏差)

このアンケート結果（Table 3、Figure 1）によれば、ベトナム渡航中に英語を使う機会は少なくないが（Q.2：4.33 ± 1.21）、回答にはばらつきが多く、個人差があるようである。逆にばらつきがなかった回答としては、異文化体験による英語力やコミュニケーションが強く関連していること（Q.10：５.00 ± 0、Q.11：５.00 ± 0）、異文化体験の影響力の大きさ（Q.4：4.67 ± 0 .52、Q.7：4.67 ± 0 .82、Q.9：4.83 ± 0 .41）、そして異文化に触れることで英語学習意欲が強く（Q.3：4.50 ± 0 .84）なっていることが明らかになった。特に異文化体験によって英語力やコミュニケーション力への関心とレベルは、参加者全員が向上すると強く認識していた（Q.10、Q.11）。他、活動内容によって個人差があったが（Q.1：4.17 ± 0 .75、Q.5：4.17 ± 0 .41、Q.6：3.83 ± 0 .75、Q.8：3.50 ± 0 .84）負の回答はなかった。また、現地での交流についての自由回答欄によれば参加者たちは、現地の人との交流を様々な手段で行っていた。基礎的なベトナム語を身につけていたことで、相手の意図を理解し合うために英語とジェスチャーを活用する、翻訳アプリを使いながらお互いに自国の言葉の発音を教え合う、などの方法で楽しい交流を築いている。店員との短い会話や、買い物の際にコミュニケーションをとることがあり、コーディネーターさんの話を通じて、地域に関する興味深い情報を得ている。結果として異なる言語や文化にもかかわらず、積極的に英語や簡単なベトナム語を駆使して交流し、刺激的で活きたコミュニケーションをする様子が伺えた。

ベトナム渡航での異文化交流は英語学習意欲についてはポジティブな影響が与えられたと言えるが、何よりも「現地の人との交流」「ローカル環境の満喫」の評価は高く、異文化体験は、英語力やコミュニケーション力への関心とレベルをあげると、回答者が全員考えていることが明らかになった。自由記述欄を通して、参加者が異文化体験において、英語を使用せざるを得ない状況に置かれることで、自然と英語力が向上すると感じていることが明らかになった。また、新しい環境での食事や経験、地元の人々との交流、買い物などが全て初めての経験となり、その中で話すことへの欲求が倍増している。このような強い意欲が今後の学習に生かされると期待される。また、コミュニケーションをとる必要がある状況においては、恥ずかしさが薄れ、間違いを恐れずに話す姿勢が養われていた。他にも、異文化の人々とのコミュニケーションにおいては、英語が通じない場合でもジェスチャーや表情で自分の気持ちを伝えることができたとの経験が挙げられていた。これらの理由から、異文化体験は英語力やコミュニケーション能力の向上に寄与すると考えられる。特に、英語を使わないとコミュニケーションが成り立たない環境では、自然な形で英語スキルが向上し、相手の英語からも学ぶ機会が増えることが期待されるのである。

2.2.2　異文化経験が英語学習に及ぼす影響についての具体的な体験や考え

参加者からは文化経験が英語学習に与えた具体的な影響に関する回答があったので、以下に紹介する。これらの回答からは、異文化経験が言語学習に対して実践的で有益な影響を与え、自己認識や学習への意欲の向上に寄与していることが伺えた。

* ベトナム訛りの英語は聞き取りやすかったと感じ、自身の英語力を客観的に認識する良い機会となった。単語を使って理解してもらえたが、文法でしっかり伝えられたら良いとの意識もある。（ベトナム訛りの英語と自己認識がされたと考える。）
* 現地で働く人々とのコミュニケーションで、自分の意思を伝える意識が高まり、それが英語学習への欲求につながった。言葉が出てこない状況において、異文化経験の重要性を再認識した。（会話の意識と英語学習への欲求が芽生えたようである。）
* 日本では英語を使う機会がなかったが、海外での経験により、間違ってでも英語を使えたことで学習への意欲が高まった。異文化での実践が学習にプラスの影響があった。（学生の実践的なコミュニケーションと意欲の向上が伺える。）
* 英語の勉強をしても実際の場で言葉が出てこない経験から、異文化経験で実際に触れ合うことの重要性を再認識した。コミュニケーションの向上を目指すためには実践が必要と感じた。（異文化経験の重要性について再認識していることが確認された。）

＊ 現地の人とコミュニケーションを取りたい気持ちから、積極的に英語を使用し、伝わらない時には翻訳やジェスチャーも利用した。英語が現地の人と繋がる手段であることを学び、今後の海外旅行でより積極的に英語を活かす学習意欲が芽生えた。(学生の積極的なコミュニケーションと学びが明らかとなった。)
＊ 伝えたいことが自信を持って伝えられないし、相手の言葉も曖昧だった経験から、よりコミュニケーションが取れるようにスキル向上を望んでいる。(学生のコミュニケーションスキル向上への願望が改めて理解された。)

2.2.3 その他、参加者の声

以下は、アンケート調査内における自由記述欄にあったコメントである。

＊ 連日の雨にもかかわらず、ベトナム渡航は大変でしたが、日本とは異なる環境で戸惑いつつも、それが楽しい思い出になりました。アスリート活動を抜きにした海外渡航は初めてで新鮮な気持ちでした。英語でのコミュニケーションが久々で楽しい経験となりました。英語学習に対してもっと努力すべきだと感じつつも、理解しようとする人たちとのコミュニケーションが自信をつける機会となりました。異文化の理解は、現地にいくと気持ちさえあれば自然に身につき、日本と比較することで大切な気づきをもたらしました。発展と未発展が同居する世界の実態を確認し、今後は誰かのためになる仕事に携わりたいとの意識が強まりました。
＊ 初めての国で心配もありましたが、現地の人々の優しさに触れ、言葉の心配がなかったことが良い経験になりました。様々な経験を通じて学びがあり、英語の勉強を続ける意欲が湧きました。感謝しています。
＊ 初めての海外旅行で緊張もありましたが、10期と先生との協力で安心して過ごせました。ホイアンではオーダーメイドのワンピースを作り、様々なアクティビティを楽しんで充実した日々を過ごしました。アオザイの制作やマッサージ、雨の思い出も含め、異文化の空間が刺激となり、新たな一面を発見しました。また、みんなとの仲が深まり、今後も共に旅行に行きたいとの意欲が生まれました。異文化理解においては、伝えようという気持ちがあれば理解が得られ、豊かな交流を経験しました。初めてのことだらけの1週間が刺激となり、本当に楽しい経験でした。
＊ 道路に動物がいたり、バイクとの距離が近かったり、市場の環境が異なることから、日本とは違った空間で異文化を感じることができました。ベトナムの料理やアオザイの制作など、充実した思い出がたくさんできて良い経験となりました。

以上、アンケートの回答結果からは、ベトナム渡航が異文化理解と英語学習意欲の向上に有益であったとの肯定的な意見が多く見受けられる。一方で、学びの中には様々な挑戦もあった。本アンケート結果では、異文化理解と英語学習意欲の相互作用の在り方が提供されている。今後の研究や教育プログラムの改善に役立つ示唆が得られたと言える。

まとめ

本論文では、ベトナム渡航のケーススタディを通して、異文化理解や交流によって英語学習意欲向上が期待されると考え、渡航の事前学習から現地での活動を調査した。その結果、調査対象者からは自立を促すメソッドとなる自己調整学習の枠組みに沿うように、思考 (Thinking)、行動 (Doing)、感情 (Feeling) が連鎖した結果、事前学習・現地での異文化体験・異文化交流とさまざまなスタイルでのコミュニケーションメソッドの実施を通して、英語学習意欲の向上への意欲が強くなった。調査結果から明らかになったように、ベトナム渡航を通じた異文化理解と英語学習の統合は学習意欲の向上をもたらすことが明らかになった。この結果はベトナムに限るものではなく、異文化経験を通して学ぶ環境は国内でも構築可能であると著者は考える。すなわち、ENL国ではなくても英語によるコミュニケーションに依存できる環境があれば、日本国内においても豊富な異文化体験と自立調整学習確立の機会があるのである。特に現在のインバウンドの回復を考慮すると、これらの機会が一層増加する

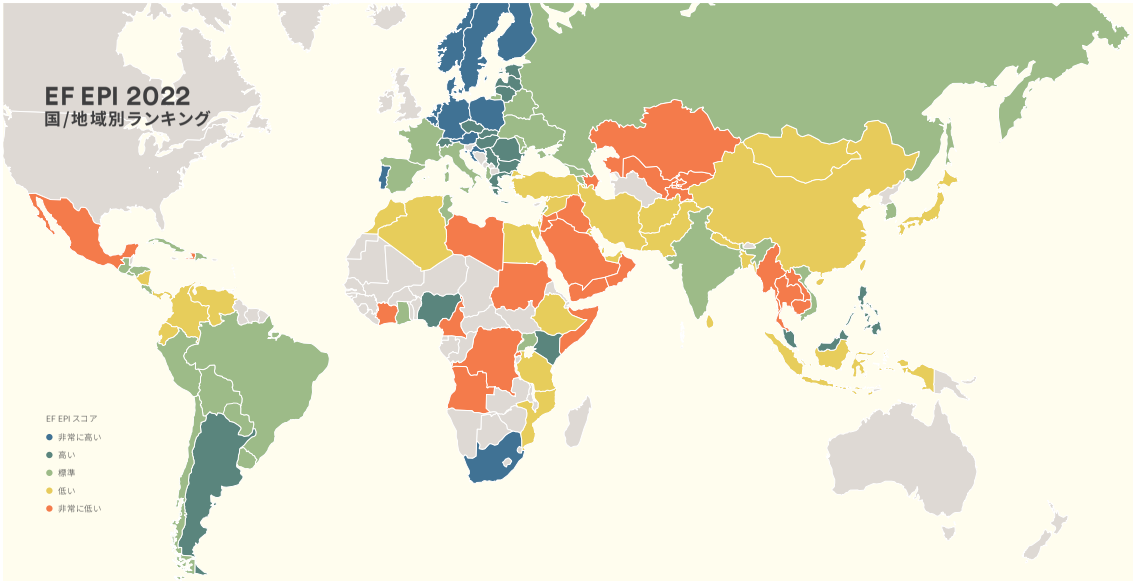
ことが期待される。

最後に、異文化理解と英語学習の結びつきは、学習者がより広い視野で世界を理解し、コミュニケーションのスキルを高める上で不可欠であると考える。これらの要素は、将来的なキャリアや個人の発展においても大いに寄与することであろう。したがって、異文化理解と英語学習の双方が重要なスキルとして捉えられ、教育の場でこれらの統合的なアプローチが一層推進されることが望まれる。

謝辞：本研究に協力をしてくれた上條ゼミナール１０期生に感謝いたします。積極的な参加により、本研究はより豊かな洞察と有益な結果を得ることができました。今後も皆様のご支援に感謝し、より一層の研究の進展を目指します。

文献目録

Education First. (2016). EF EPI 英語能力指数 世界112か国・地域の英語力ランキング. Education First.
Education First. (2019). EF EPI 英語能力指数 世界112か国・地域の英語力ランキング. Education First.
Education First. (2020). EF EPI 英語能力指数 世界112か国・地域の英語力ランキング. Education First.
Education First. (2022). EF EPI 英語能力指数 世界112か国・地域の英語力ランキング. Education First.
Education First. (2023). EF EPI 英語能力指数 世界112か国・地域の英語力ランキング. Education First.
Education First. (2023). 英語能力指数 世界112か国・地域の英語力ランキング. EF Education First Ltd.
HarrisG., GrahamS. (1999). Programmatic intervention research: Illustrations from the evolution. Learning Disability Quarterly, 22.
KachruBraj B., KachruYamuna, NelsonCecil L. (2009). The handbook of world Englishes. Malden, MA: Wiley-Blackwell.
KamijoMiwako. (2023). Cross-cultural Consideration for Snowboard Instructors in Japan : a brief report. 相模文化研究.
KUSAMOTO草本　晶　Akira. (2019). 外国語教育と「異文化理解」„Interkulturelles Verständnis“ im Fremdsprachenunterricht. ドイツ語教育 23（ドイツ語教育部会会報 71）.
ワールド・ファミリー バイリンガル サイエンス研究所. (2020年08月26日). 英語教育に「異文化理解」が必要な3つの理由. 参照先: @Press: https://www.atpress.ne.jp/news/223670
外務省. (2023年3月6日). ベトナム社会主義共和国 (Socialist Republic of Viet Nam) 基礎データ. 参照先: Ministry of Foreignn Affairs of Japan: https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/data.html
古家聡, 櫻井千佳子. (2014). 英語に関する大学生の意識調査と英語コミュニケーション能力育成についての一考察. The Basis : 武蔵野大学教養教育リサーチセンター.
胡　金定. (2010). 外国語学習は異文化理解の始まり. 甲南大学・国際言語文化センター報 VOL17 NO.3 ゼフィール17巻47号.indd.
合同会社DMM.com. (2022年8月2日). <大学生の英語学習に関する意識調査 by DMM英会話>約3分の1が「外国人とコミュニケーション」を重視、多国籍な人々との会話を通してグローバルな視点を身につけたいとの声が多数. 参照先: https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000003984.000002581.html#:~:text=%E6%9C%80%E3%82%82%E5%A4%9A%E3%81%84%E5%9B%9E%E7%AD%94%E3%81%AF%E3%80%8C%E5%8F%8B%E9%81%94,%E3%81%AE%E9%96%93%E3%81%AB%E8%A6%96%E9%87%8E%E3%82%92
上條美和子. (2023). My English Study Aim アンケート調査. 相模原市: 相模女子大学英語文化コミュニケーション学科基礎ゼミナール.
竹内　理. (2011). 英語学習の Doing, Feeling, Thinking (1). . Teaching English Now , 20.
平泉渉, 渡部昇一. (1975).『英語教育大論争』. 東京: 文藝春秋.



非常に高い英語能力

01	オランダ	661
02	シンガポール	642
03	オーストリア	628
04	ノルウェー	627
05	デンマーク	625
06	ベルギー	620
07	スウェーデン	618
08	フィンランド	615
09	ポルトガル	614
10	ドイツ	613
11	クロアチア	612
12	南アフリカ	609
13	ポーランド	600

高い英語能力

14	ギリシャ	598
15	スロバキア	597
16	ルクセンブルク	596
17	ルーマニア	595
18	ハンガリー	590
19	リトアニア	589
20	ケニア	582
21	ブルガリア	581
22	フィリピン	578
23	チェコ共和国	575
24	マレーシア	574
25	ラトビア	571
26	エストニア	570
27	セルビア	567
28	ナイジェリア	564
29	スイス	563
30	アルゼンチン	562
31	香港特別行政区	561

標準的な英語能力

32	イタリア	548
33	スペイン	545
34	フランス	541
35	ウクライナ	539
36	韓国	537
37	コスタリカ	536
38	キューバ	535
39	ベラルーシ	533
40	ロシア	530
41	ガーナ	529
42	モルドバ	528
43	パラグアイ	526
44	ボリビア	525
45	チリ	524
45	ジョージア	524
47	アルバニア	523
48	ホンジュラス	522
49	ウルグアイ	521
50	エルサルバドル	519
51	ペルー	517
52	インド	516
53	ドミニカ共和国	514
54	レバノン	513
55	ウガンダ	512
56	チュニジア	511
57	アルメニア	506
58	ブラジル	505
58	グアテマラ	505
60	ベトナム	502

低い英語能力

61	ニカラグア	499
62	中華人民共和国	498
63	タンザニア	496
64	トルコ	495
65	ネパール	494
66	バングラデシュ	493
67	ベネズエラ	492
68	エチオピア	490
69	イラン	489
70	パキスタン	488
71	スリランカ	487
72	モンゴル	485
73	カタール	484
74	イスラエル	483
75	パナマ	482
76	モロッコ	478
77	コロンビア	477
78	アルジェリア	476
78	アラブ首長国連邦	476
80	日本	475
81	インドネシア	469
82	エクアドル	466
83	シリア	461
84	クウェート	459
85	エジプト	454
86	モザンビーク	453
87	アフガニスタン	450

非常に低い英語能力

88	メキシコ	447
89	ウズベキスタン	446
90	ヨルダン	443
91	キルギス共和国	442
92	アゼルバイジャン	440
93	ミャンマー	437
94	カンボジア	434
95	スーダーン	426
96	カメルーン	425
97	タイ	423
98	ハイチ	421
99	カザフスタン	420
100	ソマリア	414
101	オマーン	412
102	サウジアラビア	406
103	イラク	404
104	コートジボワール	403
105	アンゴラ	402
106	タジキスタン	397
107	ルワンダ	392
108	リビア	390
109	イエメン	370
110	コンゴ民主共和国	367
111	ラオス	364

付録 2

EF EPI
能力レベル

EF EPI能力レベルについて
EFEPI能力レベルを見ることによって、同様のスキルレベルを持つ国々の特定や、地域内および地域間での比較が簡単にできるようになります。
各能力レベルに記載されているタスクは、各レベルにおいて個人が実行できるタスク例を示しています。各レベルにおける上位3ヶ国が一覧に記載されています。EFEPIは英語を母国語としない国と地域のみを調査の対象としています。

右の一覧では、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例を紹介しています。タスクは包括的に選択されたものではありませんが、レベル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

EFEPIは国と地域の比較を行うことを目的としており、個々の受験者の得意分野や不得意分野については、分析の対象から外しております。
そのため各国の能力レベルは、その国内にいる「平均的な」受験者のレベルを単純に示唆するものではありませんのでご注意ください。

能力レベル	タスク例
非常に高い ドイツ オランダ シンガポール	✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる ✓ 高度な文章を簡単に読むことができる ✓ 英語のネイティブスピーカーと契約交渉ができる
高い アルゼンチン ナイジェリア フィリピン	✓ 職場でプレゼンを行っている ✓ テレビ番組を理解できる ✓ 新聞を読む
標準的 ブラジル インド ロシア	✓ 専門分野における会議に参加している ✓ 歌の歌詞を理解することができる ✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる
低い 中華人民共和国 パキスタン トルコ	✓ 観光客として英語を話す国を旅することができる ✓ 同僚とちょっとした会話ができる ✓ 同僚からの簡単なメールを理解できる
非常に低い メキシコ サウジアラビア タイ	✓ 簡単な自己紹介（名前、年齢、出身国）ができる ✓ 簡単な合図を理解できる ✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる